

日田地区商工会BCP（事業継続計画）および参考資料

資料番号	資料名	備考
(1) 日田地区商工会BCP（事業継続計画）		
資料①	役職員携行カード	
資料②	緊急時連絡先一覧	
資料③	避難経路図（天瀬、大山、上・中津江）	
資料④	災害対策本部メンバーリスト・役職員緊急連絡網	
資料⑤	災害時業務リスト	
資料⑥	救護用品一覧表	
資料⑦	備蓄品リスト	
資料⑧	立ち入り判断基準	
資料⑨	帰宅判断基準	
資料⑩	感染症対策	
(2) 参考資料 ※災害発生時にそのまま使用／既に作成済の類似資料で代替可能		
参考①	消火設備の使用方法	
参考②	応急処置の方法	
参考③	負傷者情報一覧表	
参考④	職員安否情報等確認用リスト（帰宅・滞在・勤務可否含む）	
参考⑤	役員連絡先リスト（安否・事業所状況確認用）	
参考⑥	事務所被害報告シート	
参考⑦	被害情報確認シート	
参考⑧	社外被災者受け入れリスト	
参考⑨	訓練の種類	
参考⑩	地域のリスクの認識	
参考⑪	オフィスの固定対策要領	
参考⑫	水災における事前対策	
参考⑬	国土交通省出典：大規模水災害に関するタイムラインの流れ	

資料① 役職員携行カード

大規模地震・水災等 役職員携行カード

初期動作のポイント

自身/家族の安全確保



① 自身/家族の安全確保

自身/家族の安全確保



② 家族との連絡手段

自身/家族の安全確保



③ 安否報告ルール

自身/家族の安全確保

④ 指示があるまで原則待

※

1 自身/周囲の安全確保

地震

● 屋内にいる時

- 1.机やテーブルの下に隠れる
- 2.慌てて外に飛び出さない

● 屋外にいる時

- 1.カバン、着衣等で頭を保護する
- 2.安全な建物へ避難する
- 3.ブロック塀、門柱、ガラス窓等に近寄らない

● 車、公共交通に乗っている時

- 1.安全に左側に停車し、エンジンを止めてキーはつけたまま避難
- 2.公共交通機関で被災したときは、係員の指示に従う

● 揺れがおさまったら

- 1.初期消火
※ 火が天井に届いていたら、あきらめ逃げ
- 2.ドアや窓を開けて避難ルートを確保する
- 3.救助活動は、周囲と協力し無理のない範囲

1 自身/周囲の安全確保

水災

● 気象情報に注意

テレビやラジオで気象庁の災害情報等の収集に努める

● 避難情報

緊急性 ↓ 高

避難準備・高齢者等避難開始

・いつでも避難できるように準備
・高齢の方など、避難に時間を要する方は

避難勧告

・一刻も早く非難
・地下空間にいる場合は、速やかに安全な

避難指示(緊急)

・まだ避難していない人は直ちに避難
・外出することが危険な状況で屋内に残っている場合は、屋内で安全確保(頑丈な建物の、

2 避難/避難場所

● 避難する場合

- 1.落ち着いて避難を開始する
- 2.海岸近くにいる場合は、高台に逃げる
- 3.できるだけ周りの人と一緒に行動する
- 4.ブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉める
- 5.エレベーターや車を使わず、徒歩で避難
- 6.非常持ち出し袋を持つ

● 避難場所

※ 地震と火災の避難場所は異なる場合があるので確認すること

＜勤務地を基点とした避難場所・避難所＞

＜勤務地を基点とした避難場所・避難所＞

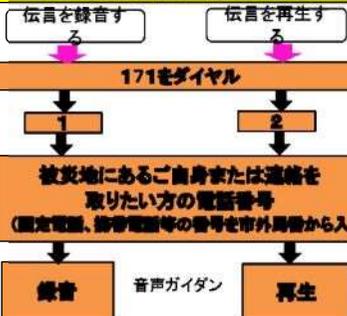
避難場所: 大きな公園や広場などの緊急避難用の施設

または場所のこと

3 家族との連絡手段

電話、携帯等の連絡手段がつかない場合、災害時(※)に設置される災害用伝言ダイヤル「171」(NTT)が利用できる。

災害用伝言ダイヤル「171」の使い方



上記の他、災害時はNTTによる「web171」や携帯電話会社(ドコモ、au、ソフトバンク)による「災害

連絡先等

● 会社:

● 商工会:

● 家族等

帰宅指示・判断基準

● 原則として会社の指示に従う

<地震>

- 1.公共交通機関が普通の場合、または道路に大きな損傷等が認められる場合は、原則として会社の指示に従い、事業所又は他の安全な場所に滞在または宿泊する
- 2.徒歩で帰宅する場合は、以下の点に注意し帰宅すること

※ 注意点

- ・徒歩で毎時2.5kmで計算すると10kmは4時間を要する(革靴では10kmが限界)
- ・夜間の行動は避ける
- ・余震が収まってから帰宅する
- ・帰宅路の安全を確認する
- ・同一方向はできるだけ集団帰宅する
- ・幹線道路を使い帰宅する

<水災>

- 1.「今後、帰宅が困難な状況が発生※」することが予測される場合は、帰宅を避け、安全な場所に退

4 安否報告ルール

- 災害発生時は、役職員の安否確認については、以下により行う。

・役員: 緊急連絡網で確認

・職員: SNS(グループライン)で確認

安否内容報告:

1. 名前・所属
2. 本人及び家族のけがの有無

<加えて、就業時間外の場合>

3. 自宅状況
4. 出社可否

- 災害発生時に会社にいる従業員は、点呼を実施の上、点呼結果を事務局長へ報告する。

【資料②】緊急時連絡先一覧

■ 社会インフラ

項目	名称	担当	連絡先	所在地	URL	備考
電気	天瀬振興局（天瀬）		57-3101	天ヶ瀬町桜竹671-2		
//	大山文化センター（大山）		52-3255	大山町西大山3600		AOSE（日田市教育庁社会教育課生涯学習推進係）
//	中津江振興協議会中津江むらづくり役場（津江）		54-3200	中津江村栃野2630-9		
水道	天瀬振興局（天瀬）		57-3101	天ヶ瀬町桜竹671-2		
//	大山文化センター（大山）		52-3255	大山町西大山3600		AOSE（日田市教育庁社会教育課生涯学習推進係）
//	中津江振興協議会中津江むらづくり役場（津江）		54-3200	中津江村栃野2630-9		
ガス	天瀬振興局（天瀬）		57-3101	天ヶ瀬町桜竹671-2		
//	大山文化センター（大山）		52-3255	大山町西大山3600		AOSE（日田市教育庁社会教育課生涯学習推進係）
//	中津江振興協議会中津江むらづくり役場（津江）		54-3200	中津江村栃野2630-9		
電話	NTT西日本		097-537-6900	大分市長浜3-15-7-8F		
IT/通信	大分県商工会連合会		097-534-9507	大分市金池町3-1-64-5F		

■ 交通機関、道路

項目	名称	担当	連絡先	所在地	URL	備考
鉄道（JR）	JR天ヶ瀬駅		57-2010	天ヶ瀬町桜竹540-1		
バス	日田バス（株）		22-7105	日田市本町8-18	https://hitabus.com/	
タクシー	（有）天瀬観光		57-3680	天ヶ瀬町桜竹640-23		
//	（有）大山観光タクシー		52-3173	大山町西大山858-1		
//	津江タクシー（有）		54-3026	中津江村栃野2655		
道路（国道）	国土交通省大分河川国道事務所 日田国道維持出張所		23-8143	日田市若宮町338		
//（県道）	大分県日田土木事務所		23-2141	日田市城町1-1-10		日田総合庁舎3階
//（市道）	日田市土木課		22-8216	日田市田島2-6-1		

■ 消防、警察、自治体

項目	名称	担当	連絡先	所在地	URL	備考
消防	日田玖珠広域消防本部		24-2204	日田市十二町558-2		
警察	天瀬警察官駐在所		57-2073	天ヶ瀬町赤岩96-5		
//	大山警察官駐在所		52-2100	大山町西大山3470-16		
//	中津江警察官駐在所		54-3523	中津江村栃野2320-1		
//	上津江警察官駐在所		54-3954	上津江町川原4689-1		
役所・役場	日田市防災・危機管理室		23-3111	日田市田島2-6-1		

■ 近隣医療機関

項目	名称	診療科	連絡先	所在地	URL	備考
病院	日田市立東溪診療所	内科	57-2500	天瀬町合田1994-1		
//	渡辺医院（大山）	内科	52-2017	大山町西大山3447-4		
//	奥平医院（中津江）	内科	54-3021	中津江村栃野2970-8		
//	日田市立上津江診療所	内・外	54-3001	上津江町川原3933		
//	大分県済生会日田病院		24-1100	日田市大字三和643-7		救急指定病院

■ 近隣宿泊施設

項目	名称	担当	連絡先	所在地	URL	備考
宿泊	天ヶ瀬温泉旅館組合		57-3466	天瀬町桜竹540-1		

■ 業務関連

項目	名称	担当	連絡先	所在地	URL	備考
全国連	全国商工会連合会		03-6268-0088	東京都有楽町1-7-1		
都道府県連	大分県商工会連合会		097-534-9507	大分市金池町3-1-64		
近隣商工会	玖珠町商工会		0973-72-1211	玖珠町帆足125-1		
//	日田商工会議所		22-3184	日田市三本松2-2-16		

■ 金融機関

項目	名称	担当	連絡先	所在地	URL	備考
銀行	大分銀行日田支店		23-2101	日田市三本松1-1-2		
//	豊和銀行日田支店		22-5121	日田市本町9-13		
信用金庫	日田信用金庫		23-3177	日田市本町3-20		
信用組合	大分県信用組合日田支店		22-6121	日田市中央2-2-17		
公庫	日本政策金融公庫別府支店		0977-25-1151	別府市餅ヶ浜町9-1		

■ 各種連絡先（設備、システム、物流、損害保険など）

項目	名称	担当	連絡先	所在地	URL	備考
設備	天瀬振興局（天瀬）		57-3101	天ヶ瀬町桜竹671-2		
//	中津江振興協議会中津江むらづくり役場（津江）		54-3200	中津江村栃野2630-9		
システム	大分県商工会連合会		097-534-9507	大分市金池町3-1-64		

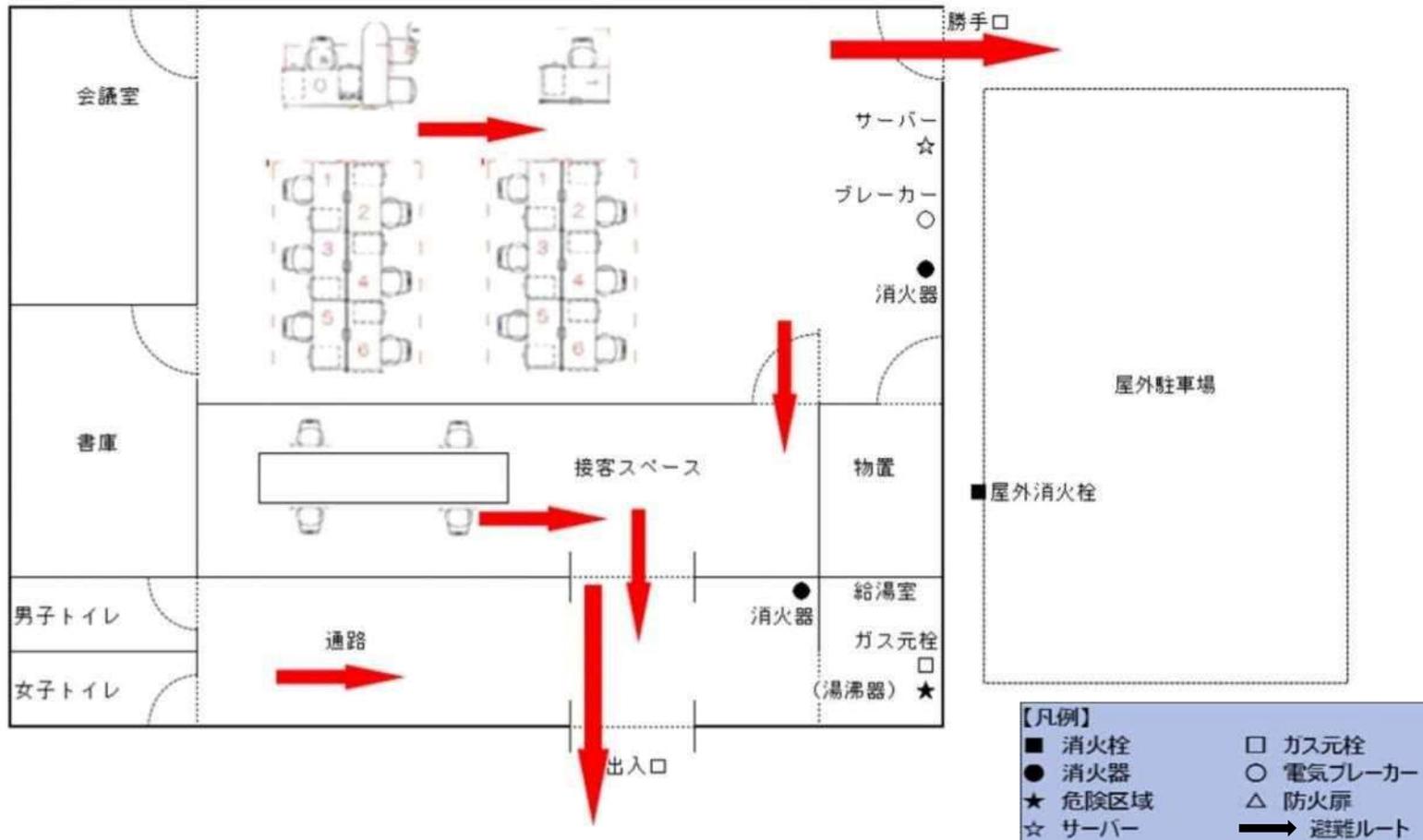
■ 近隣の避難所

項目	連絡先	所在地	備考
避難所：天瀬公民館	57-8212	天瀬町桜竹669-2	
避難所：大山文化センター	52-3101	大山町西大山3600	
避難所：中津江振興局	54-3111	中津江村栃野2357-1	

【資料③】避難ルートマップ

避難場所
(集合場所)

【マップの例】



【資料④】災害対策本部メンバーリスト

災害対策本部長

※ 不在時の災害対策本部長代行者

代行順位1位

代行順位2位

代行順位3位

災害対策本部メンバー

氏名	部署・役職	災害発生時の担当業務
	会長	
	副会頭	
	副会長	
	筆頭理事	
	監事	
	理事	
	事務局長	
	広域指導課長	
	本所指導員	

勤務時間外の至急参集メンバーリスト

氏名	部署・役職	電話番号(自宅・携帯)
	会長	
	副会頭	
	副会長	
	筆頭理事	
	監事	
	理事	
	事務局長	
	経営指導員	
	経営指導員	
	経営指導員	

【資料⑥】救護用品一覧表

No.	品目	備蓄量	配置場所	更新		備考
				更新日	次期更新予定日	
1	ガーゼ（消毒用）	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
2	包帯	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
3	脱脂綿	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
4	バンソウコウ	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
5	三角巾	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
6	タオル	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
7	はさみ	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
8	ピンセット	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
9	消毒液（傷口用）	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
10	かぜ薬	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
11	鎮痛剤	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
12	やけど薬	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		
13	体温計	1	各支所に1セットずつ	令和2年6月1日		

【資料⑧】 立ち入り判断基準

<判断基準> 原則、建物の外観を目視で確認し、以下事象が見られた場合は立ち入り不可とする

■立ち入り不可のケース

No.	確認事項	チェック結果
1	火災が発生している	
2	不均等に沈下している	
3	×状の亀裂が壁面に多数入っている	
4	外観上、明らかに建物が傾いている	
5		
6		
7		

【資料⑨】 帰宅判断基準

＜判断基準＞ 原則、下表のチェック結果をもとに危険がないと考えられる場合に帰宅を認める

■ 収集すべき情報

- ① 行政の指針
- ② 警報の発生状況
- ③ 自宅までの経路の状況（道路や橋梁の通行可否、火災発生エリア、建物崩壊エリア等）
- ④ 自宅までの距離
- ⑤ 日没までの時間
- ⑥ 天候

■ 徒歩で帰宅する場合

No.	確認事項	チェック結果
1	＜帰宅先までの距離＞ <input type="checkbox"/> 帰宅先までの距離が20km以内か。（2.5km/時で歩行時間約8時間）	
2	＜日没時刻＞ <input type="checkbox"/> 日没までに帰宅できるか。 （参考）震災時の徒歩帰宅の場合の速度の目安は約2.5km/時。	
3	＜気候＞ <input type="checkbox"/> 数時間先の気候（天気・気温）について、警報等は出ていないか。	
4	＜帰路の状況＞ <input type="checkbox"/> 帰路に大規模な火災が発生していないか。 <input type="checkbox"/> 帰路の道路状況（通行禁止区域、落橋、混雑等）の情報はどうか。 <input type="checkbox"/> 帰路の治安悪化に関する情報はないか。	
5	＜帰宅時の装備＞ <input type="checkbox"/> ヘルメット（あるとベター） <input type="checkbox"/> 携帯電話等の通信機器 <input type="checkbox"/> 小銭、テレホンカード（公衆電話用） <input type="checkbox"/> 歩きやすい靴 <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> その他（水、食糧等）	
6		
7		
8		

■ 車で帰宅する場合

No.	確認事項	チェック結果
1	＜帰路の状況＞ <input type="checkbox"/> 帰路に大規模な火災が発生していないか。 <input type="checkbox"/> 帰路の道路状況（通行禁止区域、落橋、混雑等）の情報はどうか。	
2	＜停電＞ <input type="checkbox"/> 停電していないか。	
3	＜帰宅時の装備＞ <input type="checkbox"/> 車に燃料は十分にあるか。 <input type="checkbox"/> 携帯電話等の通信機器 <input type="checkbox"/> 小銭、テレホンカード（公衆電話用） <input type="checkbox"/> 地図 <input type="checkbox"/> その他（水、食糧等）	
4		
5		

【資料⑩】 感染症対策

1. 感染症の拡大防止策

手洗いの徹底 マスクの着用	<input type="checkbox"/> 利用者・職員にマスク着用の徹底を周知し、着用していない場合は配布等に努めている。 <input type="checkbox"/> 消毒備品等を各所に設置し、利用者・職員に手洗いや手指消毒の徹底を周知している。 <input type="checkbox"/> 共用タオル等を使用しない、衣類をこまめに洗濯するなど、衛生管理を徹底している。
ソーシャル ディスタンス	<input type="checkbox"/> 行列整理や床の目印表示等により、混雑を回避している。 <input type="checkbox"/> 座席の工夫など従業員も含めて対人間隔を確保し、大声で話さないよう周知している。 <input type="checkbox"/> 対面が想定される場所への遮蔽物の設置等で接触機会を低減している。
3密※を 避けた行動 <small>※密閉、密集、密接</small>	<input type="checkbox"/> 3密が予想される場合、入場者数・滞在時間の制限等を行っている。 <input type="checkbox"/> 扉や窓を開け、扇風機を外部に向けて使用するなど、定期的な換気を行っている。 <input type="checkbox"/> 職員の休憩室等はできる限り換気を行い、対面で食事・会話をしないようにしている。
施設の 清掃・消毒	<input type="checkbox"/> 複数の人が触れる場所や物品を極力減らし、難しい場合はこまめに清掃・消毒している。 <input type="checkbox"/> 使用済みマスク等は、ビニール袋に入れて縛るなど密閉して捨てるよう表示している。 <input type="checkbox"/> 清掃・消毒・ごみ回収は手袋・マスクを着用し、事後に手洗い・手指消毒を徹底している。
利用者・職員の 体調管理	<input type="checkbox"/> 利用者で熱がある者は入場をご遠慮いただくようお願いするなどの取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 職員に出勤前に検温や体調確認をさせ、毎日報告させている。 <input type="checkbox"/> 体調不良の職員に休養を促し、勤務中に体調不良になった者はただちに帰宅させている。 <input type="checkbox"/> 所轄の保健所の確認や来場者の把握など、感染者等の発生に備えた取組を行っている。

【留意点】

新型インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等については、平時より拡大防止を図ることが重要であり、事業を実施していくためには、商工会館・事業所等での感染防止対策の徹底を図る必要がある。適宜各自治体が定めるガイドライン等も参考にしつつ、上記のような基本動作については予め徹底しておく。

2. 感染症発生時の対応

時間	優先業務とすべき事項	職員の対応	
発生前 (海外発生フェーズ)	<ul style="list-style-type: none"> 社内における感染防止策の周知徹底 感染流行国への出張禁止 安否確認システムによる連絡先の整備・確認および職員の家族に要介護者がいるか等の属性情報の整理 危機対策本部の設置準備 必要備品（マスク・消毒薬等）の調達 優先業務のランク付け 在宅勤務可能業務の選定 人手不足に備えた業務体制の構築（ジョブローテーション等） 	《勤務中》 ■ マスク着用、手洗いの励行等感染予防対策 ■ 安否確認システムの確認への返信	《勤務外（通勤中含む）》 ■ マスク着用、手洗いの励行等感染予防対策 ■ 安否確認システムの確認への返信 ■ 子供・要介護者等、感染が拡大した際の対応の検討
		《勤務中》 ■ 感染防止対策の徹底 ■ 公共交通機関を利用しない方法の検討・時差出勤の検討 ■ 安否確認システムへ必ず返信及び家族に留意事項がある場合の報告 ※感染拡大防止を第一に考え、体調に不安がある場合は無理せず自宅待機とする。	《勤務外（通勤中含む）》 ■ 感染防止策の徹底 ■ 公共交通機関をなるべく避ける ■ 安否確認システムへ必ず返信及び家族に留意事項がある場合の報告 ■ 不要不急の外出を避ける ※感染拡大防止を第一に考え、体調に不安がある場合は無理せず自宅待機とする。
発生 （当日）	<ul style="list-style-type: none"> 安否確認システムの発動（役職員の出社体制を指示・確認） 通勤手段の確保（徒歩・自転車・自家用車を使用可能な場合優先する） 危機対策本部の設置（正副会長や役員と連絡をとり、事務局長や経営指導員責任者は参集） 削減候補業務を段階的に縮小、テレワークの指示 レイアウトの変更、時差出勤の指示 	《勤務中》 ■ 感染防止対策の徹底 ■ 公共交通機関を利用しない方法の検討・時差出勤の検討 ■ 安否確認システムへ必ず返信及び家族に留意事項がある場合の報告 ※感染拡大防止を第一に考え、体調に不安がある場合は無理せず自宅待機とする。	《勤務外（通勤中含む）》 ■ 感染防止策の徹底 ■ 公共交通機関をなるべく避ける ■ 安否確認システムへ必ず返信及び家族に留意事項がある場合の報告 ■ 不要不急の外出を避ける ※感染拡大防止を第一に考え、体調に不安がある場合は無理せず自宅待機とする。

【参考①】 消火設備の使用方法

(1) 大きな声で周囲の人に火災を知らせ、消火器を火災場所まで運ぶ。

(2) 消火器の安全栓を抜く。



(3) ホースをはずし火元に向ける。

この事業所の消火器は、『○○○』にあります。



(4) レバーを強く握る。



(5) 放射する。



<参考：横浜市消防局資料から抜粋>

【注意】

天井に炎が到達または天井に燃え移った時点で、消火器による消火活動はできないと判断する。
その場合、速やかに初期消火を中止し避難をはじめめる。

第2章

おぼえておこう！ 応急手当

身につけよう！

大きな災害が発生して、けがをしてしまった場合、また、自分は無事でも家族やまわりの人がけがをしている場合、どうすればよいのでしょうか。災害時は、ふだんのように救急車がかけつけられないことも考えられます。こうした場合にそなえて、少しでも役立つ応急手当の知識を身につけておきましょう。

ケガの
応急手当

やってみよう！

1. 切りキズ
などによる出血

キズの手当ては、1.出血を止める(止血)、2.細菌の侵入を防ぐ、3.痛みをやわらげる、という3つのことを意識しながら行う。



応急手当

- 1.出血しているところを完全におおえる大きさの清潔なガーゼや布でやや強く押さえ、止血する。
- 2.患部を清潔に保ち、包帯などを巻く。
- 3.じかに血液にふれないようにビニール・ゴム手袋を利用する(スリーパーの袋などでもよい)。

応急手当

- 1.流水で患部を冷やすのがいちばんよいが、水が出ないときは、水でぬらした清潔なガーゼやタオルをひんぱんにかえて冷やす。
- 2.水ぶくれは壊さないようにする。
- 3.清潔なガーゼかきれいな布を当て、包帯をする。



2. やけど

- ※キズ、やけどの場合、やたらに医薬品を使うのはやめよう。
- ※キズ口に直接、わたやチリ紙を当てないようにしよう。
- ※キズややけどがひどい場合は、病院でみてもらおう。

3. 骨折

応急手当

- 1.出血している場合は、その手当てをする。
- 2.扇子を当て、痛くない位置で固定する。扇子は骨折部分の上下の関節より長くなる。
- 3.骨が突き出しているときは、その上に清潔なガーゼか布を当て、シャツなどでくるむ。

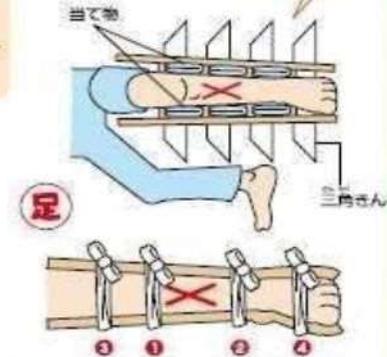


- 1.骨折しているところに扇子を当て、その上下を固定する。
- 2.三角さんでつけたあと、さらに腕部に固定する。

★骨折のみかた

- 激しい痛み ●はれたり変形している
- 冷や汗がでたり、寒気がする ●さわってみると骨がずれている
- キズ口から骨のはしが出ている

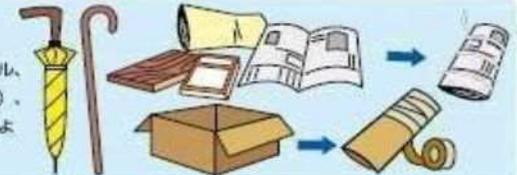
固定のみかた



- 1.骨折しているところの両側から、扇子を当てる。
- 2.関節が動かないよう、1～4の順番に固定する。

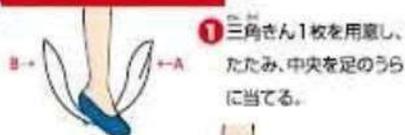
★扇子とは？

棒や板、かさ、ステッキ、段ボール、新聞紙・雑誌(かたく折り曲げる)、毛布などで、骨折部分を動かさないように固定できるもの。



- ※骨折したところはしっかり固定して動かさないようにする。
- ※骨がとび出している場合でも、元に戻さない。また、キズ口は洗わないこと。
- ※固定が強すぎると血の流れが悪くなり、危険な場合もあるので注意する。その観察のためにも、指先や足先が見えるようにしておく。

4. ねんざ

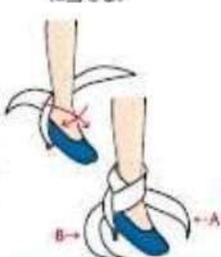


① 三角さん1枚を用意し、たたみ、中央を足のうらに当てる。



② 三角さんの両はしを足首のうしろに引き上げて交差させる。

③ 三角さんの両はしを足の甲の方に回し、足首で交差させ、両はしをかかととなめぬにまいた三角さんの内側に通す。



④ 三角さんの両はしを足首の前で結ぶ。

応急手当

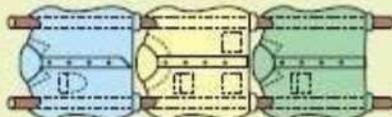
1. 患部は冷やす。
2. くつはそえ木のかわりになるので、ぬがなくてその上から三角さんや布などで固定する。

知っていると便利! ★応急担架のつくり方

動けない人を運ぶときは、衣類や毛布を使って、応急担架をつくれます。

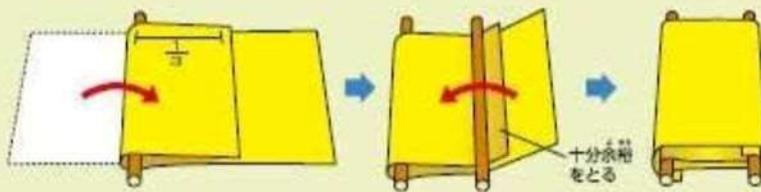
1 上着を活用

図のように2本の棒に上着を通します。



2 毛布を活用

毛布の1/3のところを棒に置いて、毛布をおり返してつくります。



救急箱の中身

- ※ 救急箱はいつも同じ場所に置こう。
- ※ 薬やガーゼは使ったらすぐに補充しよう。
- ※ 年1回は点検をして、古くなった薬やガーゼはすてよう。
- ※ 救急箱の中身は必要最低限のものだけにしよう。

★救急箱の中身の例



三角さん
包帯(4号・6号が便利)



消毒ガーゼ
きれいなタオル



ばんそうこう(大・小)



体温計



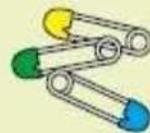
はさみ・ピンセット



キズ口用の消毒液



常備薬
(かぜ薬、胃腸薬、痛み止めなど)



安全ピン

読みのもの

病院がいっぱいになってしまうと...

災害が発生して多くのけが人ができると、みんな病院でみてもらおうと考えます。しかし、病院やお医者さんも被害を受け、満足な手当ができないことも考えられます。ただでさえけが人がいっぱい、しかも施設が使えない、そのとき問題になるのが、本当に手当を必要としている人と、そうでない人の区別です。災害時に、けがの程度に応じて患者を区分していくことを「トリアージ」といいます。トリアージはフランス語で、もともとはコーヒー豆を選別するときに使われた語だと言われており、現場ではトリアージ・タグという色のついたラベル(黒、赤、黄、緑)を使って患者の区分をします。わたしたちも本の知識ばかりでなく、講習会などで体験することによって、応急手当や救出救護の知識を身につけ、いざというときに役にたいものです。



トリアージ・タグ

どうする?!

人がたまたまいたら

① 意識があるか調べる

意識を確認する方法

- ★よびかけて返事をするか。★語はできるか。
- ★手足を動かしているか。★痛みに対して反応はあるか。

② 協力してくれる人を求める

★意識の障害があった場合は、すぐその場で救急車をよんでもらったり、大声でまわりの人をよびます。

③ 5つの観察と応急手当

1. 周囲の安全の確認

たおれている場所が安全かどうかを確認し、危険な場所ならば安全な場所に移動する。

3. 救急車をよぶ

まず、意識の有無を確認し意識がなければ近くの人に協力を求め、救急車をよぶ。

4. 気道の確保

意識がないときは呼吸がしやすいよう空気の通り道を確保する。

5. 呼吸の確認

呼吸が止まっていたら、すぐに人工呼吸を行う。

2. 出血の確認

大出血があったらすぐ止血する。

- ※救急車のよびかたは、P8-9をみてください。
- ※口の中に何かつまっていたら取りのぞき、血液や唾液はふきとる。
- ※よびかけても反応がないときは、むやみにおこしたり、ゆすりたりしない。
- ※気道を確保するときは、顔をムリに後ろにそらせないようにしよう。
- ※正しい方法を身につけるために、応急手当の講習会を受けよう。

人工呼吸

① 顔面と人差し指で、鼻をつまみ鼻の孔をふさぎます。



② 大きく口をあけて鼻の間に1秒2秒かけて息を吹き込みます。



③ 気筒はく息が入れば、もう一回息を吹き込みます。



胸骨圧迫

① 胸の真ん中に手を重ね、両腕で体重をかけ、胸骨が4cm~5cm下方に位置するように1分間100回の早とて300回位します。(93kgが0.9)



② 30回圧迫後、人工呼吸を2回行います。この操作を一定時間で繰り返します。



AEDが到着したら

① 電源を入れる



② 電極パッドを胸に貼る
体の汗や水で濡れていたらタオルで拭きます。



③ 電気ショックの必要性をAEDが判断する場合は、必ずしも電極パッドに貼れないようにします。



④ ショックボタンを押す
誰も電極パッドに触れていないことを確認したら、付属しているショックボタンを押します。



⑤ 以降は、AEDの音声メッセージに従います。

※心臓停止（人工呼吸・胸骨圧迫）とAEDの手続きは、救急車に到着するまで続け、自らかの応急や目的のある仕事（例えば、働くなどの作業）が再開したり、継続どりの息が再開するまで続けます。

★夏は暑さによる脱水症状に注意

夏場、注意しなければならないのは、暑さによる脱水症状です。暑いと人間は汗をかきますが、このとき水分や塩分は体の外へ出てしまいます。すると、血液が流れにくくなってしまい、その分血液を送り出すために心臓に負担がかかります。脱水症状をおこすと、頭痛、ほてり、めまい、体温上昇、だるさなどの症状があらわれ、意識がなくなり危険な状態になることもあります。ムリをして長い時間炎天下で運動をしないことがいちばんですが、次のことに注意しましょう。

- ★外ではぼうしをかぶり、長い時間炎天下で過ごさない。
- ★予防法
★ごまめに水分をとる。スポーツドリンクは糖分や塩分、ミネラルも同時に補給できます。
★寝不足やつかれているときにムリをしない。
- ★応急手当
★休息 楽な状態に安静をさせ、衣服をゆるめたりぬがせたりして、体を冷やす。
★冷却 エアコンの入っているところ、風通しの良い日かげなどすずしいところで休ませる。
★水分補給 水が飲めるようであれば、少しずつ水を飲ませる。
※はき気がある、意識がはっきりしないなど、危険な状態であれば救急車をよぼう。

【こたえ=○】 体のなかの大きな血管がやぶれていたり、骨盤が歪みついていたりすることがあるため、ムリに動かすとかえって危険。すぐに救急車をよび、まわりの安全確保につとめよう。

【参考③】負傷者情報一覧表

月 日 時 分 (24時制) 時点

№	受付日時	所属	負傷者氏名	救護所受付者	負傷箇所	症状	処置	ステータス			備考
								症状	病院への搬送状況	家族への連絡状況	
1								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
2								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
3								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
4								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
5								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
6								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
7								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
8								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
9								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	
10								軽・重・死	不要・未・済(/、 :)	不要・未・済(/、 :)	

【参考⑥】事務所被害報告シート

確認場所		確認日時	
確認者			

確認項目		確認内容	確認結果	備考
火災		火災発生の有無		
執務室内	床	陥没		
	壁・扉	亀裂、破損		
	天井パネル	亀裂、落下		
	PC端末	破損、落下、転倒		
	その他			
廊下	床	陥没		
	壁	亀裂、破損		
	天井パネル	亀裂、落下		
給湯室	ガス	漏れ、ガス臭		
	水道	漏水、水が出るか		
	その他	棚、食器の破損		
トイレ	水道	漏水、水が出るか		
	便器など	破損		
	窓・鏡	ガラス割れ		
建物全体	建物躯体	倒壊の恐れ		
	電力	停電		
	エレベーター	停止・閉じ込め		
	空調	停止		
その他				

【参考⑨】訓練の種類

訓練名称	概要	実施目安	実施予定日	実施日
避難訓練	実際に定められた避難経路に沿って避難行動を実施する。 ※ 留意点1 津波想定区域については、津波避難訓練も併せて実施する。 ※ 留意点2 大規模水害の場合は、垂直避難(2階避難、階上避難)と水平避難(避難所避難、高台避難等)の2種類の避難が想定されることに留意する。	年1~2回	()月()日 ()月()日	()月()日 ()月()日
消火訓練	事務所内にある消火器の扱い方や消火方法等について訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日
水防訓練	大規模水害に備えた止水版・土嚢設置等の訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日
応急救護訓練	応急手当の方法等について訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日
救助訓練	下敷きになった人の救助方法や搬送方法等について訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日
安否確認訓練	導入している安否確認システムの扱い方について訓練を実施する。	年1~2回	()月()日	()月()日
帰宅訓練(徒歩)	交通機関が遮断していることを想定し、徒歩での帰宅を実施する。	年1回	()月()日 ()月()日	()月()日 ()月()日
災害対策本部設置訓練	災害対策本部のレイアウト等を確認し、スムーズに本部が設置できるか訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日
災害対策本部参集訓練	災害対策本部メンバーの参集ルールに従い、参集できるかどうか訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日
通信機器操作訓練	導入している通信機器(衛星電話、IP無線等)の作動状況、操作方法等を確認する。	年1回	()月()日	()月()日
バックアップデータに関する訓練	バックアップしているデータや書類が利用できるか、バックアップ場所から取り出す訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日
図上シミュレーション訓練	ある災害シナリオを想定し、決められたルールに従って災害対応ができるか、シミュレーションにて訓練を実施する。	年1回	()月()日	()月()日

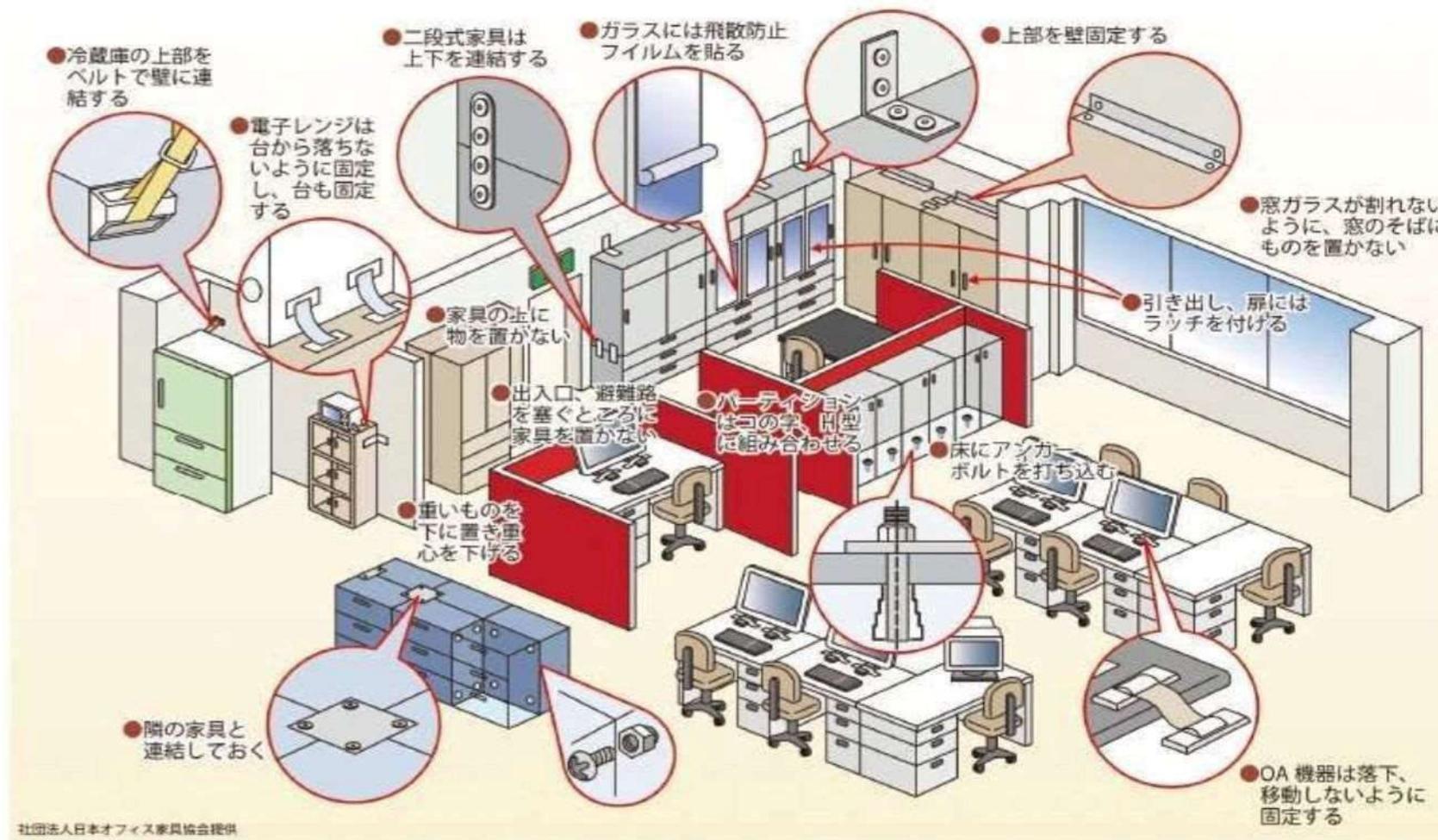
【参考⑩】地域のリスクの認識

下記URLのほか、国及び各市町村等が発表しているハザードマップ等を参考に、事前に自所を取り巻くリスクを認識しておきましょう

災害	調査項目	発行元	コンテンツ	URL	備考
地震	主要地震を調べる (規模・発生確率)	地震本部 (政府地震調査 研究推進本部)	長期評価	http://www.iishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/ltsummary/	
		防災科学技術 研究所	J-SHIS 地震ハザードステーション	http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/	アプリあり 住所情報の活用
	震度分布を調べる (海溝型地震)	国土交通省	わがまちハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/	
	震度分布を調べる (活断層型地震)	同上	同上	同上	
		防災科学技術 研究所	J-SHIS 地震ハザードステーション	http://www.j-shis.bosai.go.jp/map/	アプリあり 住所情報の活用
	津波浸水深を調べる	国土交通省	重ねるハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/maps/?ll=38.479395,135.703125&z=3&base=pale&vs=c1j0I0u0	住所情報の活用
		同上	わがまちハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/	
国土地理院		2万5千分の1 浸水範囲概況図	http://www.gsi.go.jp/kikaku/kikaku40014.html	東日本大震災の津波 浸水範囲	
水災	主要河川を調べる	国土交通省	川の防災情報	http://www.river.go.jp/kawabou/ipKozuiMap.do?areaCd=82&gameId=01-0401&fldCtlParty=no	スマホ版は位置情報 活用
	想定浸水深を調べる	同上	同上	同上	同上
		同上	重ねるハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/maps/?ll=38.479395,135.703125&z=3&base=pale&vs=c1j0I0u0	住所情報の活用
		同上	わがまちハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/	
火山	火山の危険エリア等を 調べる	国土交通省	わがまちハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/	
土砂災害	土砂災害の危険エリア を調べる	同上	重ねるハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/maps/?ll=38.479395,135.703125&z=3&base=pale&vs=c1j0I0u0	住所情報の活用
		同上	わがまちハザードマップ	https://disaportal.gsi.go.jp/hazardmap/	

オフィスの固定対策要領

オフィス家具等の転倒防止対策の例



※ 東京消防庁「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック—室内の地震対策—平成24年7月」より

水災における事前対策

平常時の対策																					
施設管理	<input type="checkbox"/> 建物の修繕計画を策定し、適用している。 ・ 建物全体としての健全な状態を維持するためには、部材の適切な修繕・更新周期に基づいて計画的に工事を行うことが重要である。スレートや波状鉄板の更新周期は概ね30年が目安とされている。 ・ 劣化が顕著になる前の予防保全、修繕費用の把握、工事時期の調整などが可能になる。 ・ 部材の劣化状況によっては、計画より前倒しでの対応が必要となることも想定されるため、予定の前年などに専門業者による点検を行った上で、工事実施時期を判断することが望ましい。	<input type="checkbox"/> 建物の定期点検項目を明確にし、劣化や損傷、不具合の箇所を修繕・解消している。 <input type="checkbox"/> 外装材のひび割れや穴 <input type="checkbox"/> 外装材や壁外設置物の留め金具の錆や緩み <input type="checkbox"/> 窓やシャッターのたつき <input type="checkbox"/> 雨漏り箇所 <input type="checkbox"/> 壁と防水の劣化 <input type="checkbox"/> 排水系統の詰まり <input type="checkbox"/> 非常用発電機、排水ポンプの燃料補給・試運転 <input type="checkbox"/> リスタが大きいと考えられる箇所に対策を施している。 <input type="checkbox"/> 間柱・小梁による窓枠周りの補強 <input type="checkbox"/> 窓ガラスへの飛散防止フィルムの貼り付け、あるいは強化ガラス・網入りガラスの採用、あるいは雨戸の設置 <input type="checkbox"/> 中柱設置によるシャッターの二重化、あるいは重量のあるシャッターへの取換え <input type="checkbox"/> スレート、鉄板などの外装材の留め金具の増設 <input type="checkbox"/> 倒れそうな樹木の補強、あるいは除去 <input type="checkbox"/> 浸水危険の小さい場所へのデータサーバーや重要書類の保管庫の設置 <input type="checkbox"/> 重要データの複製 <input type="checkbox"/> 受変電設備の嵩上げ <input type="checkbox"/> 浸水センサー、漏れ計の設置	・ 被害を最小限に食い止めるためには、ハード面の対策が重要である。 ・ ハードの対策には時間・コストを要するものが多いため、平常時から計画的に取り組んでおくことが望まれる。																		
	施設・収容品防護用 <input type="checkbox"/> 土のう <input type="checkbox"/> 止水板 <input type="checkbox"/> 防水シート <input type="checkbox"/> バケツ <input type="checkbox"/> パレット (保管品の嵩上げ用) <input type="checkbox"/> はしご <input type="checkbox"/> 針金 <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> ガムテープ <input type="checkbox"/> 排水ポンプ	行動計画・マニュアル <input type="checkbox"/> 事前防災行動計画 (タイムライン) を策定している。 <input type="checkbox"/> 災害のピークから逆算した時間軸での対策 例: 台風最接近時を基準に、-48時間、-24時間、-12時間、-6時間、...、+3時間の実施事項の明確化 <input type="checkbox"/> 対策実行のさっかけの設定 例: 気象庁の各種注意報・警報が発表された際の実施事項の明確化 <input type="checkbox"/> 緊急時の行動基準・対応マニュアルを策定している。 <input type="checkbox"/> 避難場所の設定 <input type="checkbox"/> 安否連絡・確認方法 <input type="checkbox"/> 設備の安全な停止方法 <input type="checkbox"/> 事業継続計画 (BCP) を策定している。 <input type="checkbox"/> 中核事業の特定 <input type="checkbox"/> 目標復旧時間の設定 <input type="checkbox"/> 取引先との協議 <input type="checkbox"/> 代替策の用意	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">何を</th> <th colspan="3">誰が</th> </tr> <tr> <th>A班</th> <th>B班</th> <th>C班</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対策3</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>対策2</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>対策1</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>タイムラインのイメージ</p>	何を	誰が			A班	B班	C班	対策3	○	○	○	対策2	○	○	○	対策1	○	○
何を	誰が																				
	A班	B班	C班																		
対策3	○	○	○																		
対策2	○	○	○																		
対策1	○	○	○																		
人命安全確保用 <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 長靴 <input type="checkbox"/> 手袋 <input type="checkbox"/> 雨合羽 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> ゴムボート <input type="checkbox"/> 担架 <input type="checkbox"/> 拡声器 <input type="checkbox"/> トランシーバー <input type="checkbox"/> 従業員名簿	訓練 <input type="checkbox"/> 実動訓練を実施している。 ・ 緊急時対応マニュアルどおりに行動ができるか実際に動いてみる (土のうの配置、排水ポンプの起動など)。 <input type="checkbox"/> 図上訓練を実施している。 ・ 仮想の台風シナリオに基づいて、災害対策本部の情報伝達や意思決定がスムーズに行われるかシミュレーションする。	訓練で浮かび上がった課題を計画・マニュアルに反映させることで、より実効性の高い防災体制が構築できる。																			
事業継続・帰宅困難対応 <input type="checkbox"/> 非常用発電機 <input type="checkbox"/> 非常食 <input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 非常用トイレ <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> 簡易間仕切り (プライベート空間の確保)																					
その他 <input type="checkbox"/> 配置図 (建物や設備、保管品の設置場所が示されたもの) <input type="checkbox"/> 危険箇所図 (危険箇所が図面に示されたもの)																					

※ MS&ADインターリスク総研発行レポート(2015年8月)より抜粋

【対策例】

<止水版の設置>



出典:国土交通省「浸水被害防止に向けた取組事例集」より引用

<土嚢の設置>



出典:国土交通省「家庭で役立つ防災」より引用

<水嚢と板による簡易止水版>



出典:国土交通省「家庭で役立つ防災」より引用

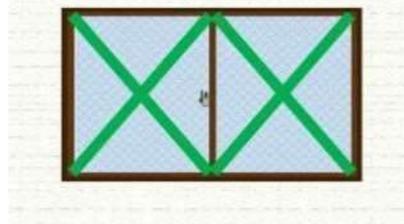
<排水路の確保>



落ち葉やごみを取り除き、排水路を確保する。

出典:国土交通省「家庭で役立つ防災」より引用

<窓の養生>



出典:天災インフォ.comより引用

<排水ポンプの稼働>



出典:国土交通省「浸水被害防止に向けた取組事例集」より引用

大規模水災害に関するタイムライン（防災行動計画）の流れ



※タイムラインに関わる関係機関、防災行動は多岐にわたりますが、本イメージ図は国土交通省の対応や広域避難と交通サービスに着目して整理したものであり、時間軸の設定、対応の実施などにあたっては、今後の検討、調整が必要になります。また、赤字は特に対応強化の必要と考えられる項目です。